

平成28年 結核登録者情報調査年報集計結果について

当該年報は、平成28年1月1日から同年12月31日の間に、新たに登録された結核患者及び潜在性結核感染症(LTBI)の者と、平成28年12月31日現在に登録されているすべての登録者に関する状況について、感染症サーベイランスシステム(NESID)上の結核登録者情報システムに全国の保健所から入力されたものを、「結核登録者情報調査年報」として取りまとめたものである。

～表ごとの解説～

【表1 諸外国と日本の結核罹患率について】

結核罹患率(人口10万対)は、平成32年までに10以下を目指しているところ、平成28年の結核罹患率は13.9であり、前年と比べ0.5ポイント減少している。

日本の結核罹患率は近隣アジア諸国に比べ低い水準にあり、米国等の先進国の水準に年々近づいている。

【表2 結核罹患率の都道府県別おもな順位について】

都道府県別の結核罹患率(人口10万対)は、大阪府、東京都、愛知県、岐阜県、徳島県の順に高く、山形県、長野県、宮城県、秋田県、福島県の順に低くなっている。大阪府の結核罹患率は22.0であり、同府の中でも大阪市の罹患率が最も高く、32.8となっている。(表2、表7-2)

【表3 結核の死亡数及び死亡率の年次推移について】

平成28年の結核による死亡数は1,889人(概数)で、前年の1,956人に比べ67人減少している。死亡率(人口10万対)は、1.6から1.5に減少したが、死因順位は、29位から28位と、ひとつ順位を上げている。

【表4 新登録結核患者数及び罹患率の年次推移について】

- (1) 平成28年に、新たに結核患者として登録された者の数(新登録結核患者数)は17,625人で、前年より655人(3.6%)減少している。減少率を見ると、平成26年から平成27年にかけての減少率は6.8%(19,615人→18,280人)であることから、減少幅は3.2ポイント小さくなっている。(表4-1)

- (2) 平成28年の罹患率（人口10万対）は13.9であり、前年の14.4より0.5(3.5%)減少している。減少率を見ると、平成26年から平成27年にかけての減少率は6.5%であることから、減少幅は3.0ポイント小さくなっている。（表4-1、図1）
- (3) 菌喀痰塗抹陽性肺結核の患者数は6,642人で、前年より489人（6.9%）減少している。（表4-2）
- (4) 菌喀痰塗抹陽性肺結核の罹患率（人口10万対）は5.2であり、前年の5.6より0.4減少している。菌喀痰塗抹陽性肺結核の患者が全体に占める割合は37.7%で、前年と比べて1.3ポイント減少している。（表4-2）

【表5 年次別・年齢階級別 新登録結核患者数および潜在性結核感染症新登録者数について】

- (1) 年齢階級別の新登録結核患者数では、0～14歳の小児結核で8人増加している。また、15～19歳で27人、20～29歳で108人増加している。高齢層では、70～79歳で最も大きい350人の減少となったが、90歳以上では165人の増加となっている。各年齢階層別で全体に占める割合は、80～89歳が29.2%と最も多くなっているが、平成26年以降増加傾向は見られない。一方、90歳以上では10.5%となっており、増加傾向にある。（表5-1）
- (2) 年齢階級別の菌喀痰塗抹陽性肺結核新登録患者数は、10～19歳で8名の増加であったが、20～29歳では10人の減少となっている。減少幅は70～79歳が最も大きく、156人の減少となっている。各年齢階層別で全体に占める割合は、80～89歳が33.3%と最も大きくなっている。（表5-2）
- (3) 平成28年に登録された小児結核患者（15歳未満）のうち、重症結核例である粟粒結核及び結核性髄膜炎患者数は2人（いずれも0歳児）であったが、うち1人は粟粒結核と結核性髄膜炎の併発であった。（表5-3）
- (4) 平成28年に新たに登録された潜在性結核感染症の者の数は7,477人で、前年より802人の増加となっている。年齢階級別では、60～69歳で241人の増加と最も大きくなっている。また、20～29歳でも150人の増加となっている。（表5-4）

- (5) 新登録結核患者数に対する潜在性結核感染症新登録者数の比は、14歳以下の年齢で1以上となっており、潜在性結核感染症新登録患者数の方が多くなっている。15歳以上の年齢階級では、いずれも1未満となっており、新登録結核患者数の方が多くなっている。(表5-5)
- (6) 職業別では、全体の潜在性結核感染症新登録者数に占める医療職の割合が、前年の26.8%から24.9%に減少している。一方、無職・その他が全体に占める割合は、前年の25.2%から27.9%と、平成24年の12.7%から2倍以上の増加となっている。(表5-6)
- (7) 外国生まれ新登録結核患者数は、前年から174人増加し、1,338人となった。最も増加したのは20~29歳であり、前年から147人増加し、712人となっている。また、20~29歳の新登録結核患者における外国生まれの者の割合も前年から7.6ポイントの増加し、57.7%となっている。(表5-7)
- (8) 外国生まれ新登録結核患者のうち、入国5年以内の者は、前年の505人から103人増加し608人となった。特に20~29歳の年齢階級では、前年から81人増加し、432人となっている。(表5-8)

【表6 年次別・年齢階級別 結核罹患率について】

- (1) 年齢階級別の結核罹患率は、高齢層ほど高く、60~69歳で12.0、70~79歳で24.5、80~89歳で60.8、90歳以上では96.3となっている。(表6-1)
- (2) 菌喀痰塗抹陽性肺結核の罹患率も、同様に、高齢層ほど高くなっている。70歳代までは10未満であったが、80~89歳で26.2、90歳以上では45.1となっている。(表6-2)

【表7 新登録結核患者数及び結核罹患率 都道府県別・年次推移について】

- (1) 都道府県別の新登録結核患者数は、47都道府県のうち10の都府県で増加している。新登録結核患者数が最も多いのは東京都の2,340人で、次いで大阪府の1,945人となっている。(表7-1)
- (2) 都道府県別の結核罹患率は、47都道府県のうち12の都府県で増加している。一方、結核低まん延の水準である罹患率が10を下回

った県は、前年の9県から10県に増えている。最も低い山形県の結核罹患率は7.2となっている。(表7-2)

【表8 年末時結核登録者数及び有病率の年次推移について】

平成28年末現在の結核登録者数は42,299人と、前年の44,888人より2,589人減少している。そのうち、活動性全結核の患者数は11,717人と、前年より817人減少している。また、平成28年末の結核有病率は、前年の9.9から0.7減少し、9.2となっている。(表8)

【表9～表14 新登録結核患者の疫学的特徴について】

<再治療患者>

平成28年新登録結核患者のうちの再治療患者は、千人を下回って908人となっている。このうち、前回治療年が2000年以降の者は567人で、さらに2010年以降の者が430人と再治療患者のうち47.4%となっている。

(表9)

<発見の遅れ>

(ア) 平成28年の新登録肺結核患者のうち有症状の者の中で、受診が遅れる(症状発現から受診までの期間が2か月以上の割合)患者の割合は、19.7%となっている。このうち30～59歳の有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核患者に限定すると、受診が遅れる患者の割合は33.3%となっている。(表10-1)

(イ) 診断が遅れる(受診から結核の診断までの期間が1か月以上)患者の割合は、22.0%となっている。(表10-2)

(ウ) 発見が遅れる(症状発現から結核の診断までの期間が3か月以上)患者の割合は、19.6%となっている。(表10-3)

<薬剤耐性>

平成28年の新登録肺結核培養陽性結核患者9,878人のうち、薬剤感受性検査結果が判明した者は7,732人で、78.3%となっている。このうち、多剤耐性肺結核患者数(INH, RFP両剤耐性の者)は49人で、新登録肺結核培養陽性結核患者の0.5%となっている。また、薬剤感受性検査結果が判明した者のうち、主要4剤(HRSE)全ての薬剤に対し感受性のある患者の

割合は89.7%となっている。(表11)

<糖尿病、HIV合併>

平成28年の新登録結核患者のうち、糖尿病合併患者は2,509人で、新登録結核患者の14.2%となっている。また、HIV検査を実施した患者は1,600人で、新登録結核患者の9.1%にあたり、このうちHIV陽性は44人で、新登録結核患者の0.2%となっている。(表12)

<医療従事者>

(ア) 平成28年の新登録結核患者のうち、看護師・保健師からの登録患者は191人で、新登録結核患者のうちの1.1%となっている。年齢階級別では、30～39歳の層が最も多く、同年齢階級新登録結核患者の5.3%となっている。(表13-1)

(イ) 平成28年の新登録結核患者のうち、医師の登録患者は40人で、新登録結核患者の0.2%となっている。年齢階級別では、40～49歳における割合が最も大きく、同年齢階級新登録結核患者の0.7%となっている。(表13-2)

(ウ) 平成28年の新登録結核患者のうち、理学療法士、作業療法士、検査技師、放射線技師など、看護師・保健師・医師以外の者で医療機関に勤務する者の登録患者数は231人で、新登録結核患者の1.3%となっている。年齢階級別では、30～39歳における割合が最も大きく、同年齢階級新登録結核患者の5.2%となっている。(表13-3)

<無職臨時日雇など>

平成28年の新登録結核患者のうち、登録時の年齢が20～59歳であり、登録時の職業が無職臨時日雇等であった者は1,105人で新登録結核患者の23.2%となっている。年齢階級別での患者数は、高齢層ほど多くなっており、55～59歳では、同年齢階級の35.9%を占めている。

また、男性の患者に占める無職臨時日雇等の者の割合は55～59歳が最も割合が大きく、33.5%となっているが、昨年から7.3ポイント減少している。(表14-1、14-2)

表 1. 諸外国と日本の結核罹患率

国名	罹患率	年次
米 国	2.8	2015
カナダ	4.6	2015
オランダ	5.0	2015
オーストラリア	5.2	2015
デンマーク	5.6	2015
イタリア	5.8	2015
フランス	7.0	2015
ドイツ	7.0	2015
スウェーデン	8.0	2015
英 国	9.0	2015
日 本	13.9	2016
シンガポール	39	2015
中国	58	2015
韓国	75	2015
タイ	91	2015
ベトナム	108	2015
インドネシア	128	2015
フィリピン	275	2015

諸外国のデータは、下記より転記

Download WHO TB burden estimates [830kb]

TB_burden_countries

<http://www.who.int/tb/country/data/download/en/>

結核罹患率（人口10万対）は、平成32年までに10以下を目指しているところ、平成28年の結核罹患率は13.9であり、前年と比べ0.5ポイント減少している。日本の結核罹患率は近隣アジア諸国に比べ低い水準にあり、米国等他の先進国の水準に年々近づいている。

表 2. 結核罹患率の都道府県別おもな順位

	都道府県名	罹患率
罹患率の低い5都道府県	山形	7.2
	長野	7.9
	宮城	7.9
	秋田	8.5
	福島	8.6
罹患率の高い5都道府県	大阪	22.0
	東京	17.2
	愛知	16.9
	岐阜	16.3
	徳島	16.0

同率の場合は小数点2位以下で順位を決定

都道府県別の結核罹患率（人口10万対）は、大阪府、東京都、愛知県、岐阜県、徳島県の順に高く、山形県、長野県、宮城県、秋田県、福島県の順に低くなっている。大阪府の結核罹患率は22.0であり、同府の中でも大阪市の罹患率が最も高く、32.8となっている。

表3. 結核の死亡数及び死亡率の年次推移

年次	死亡順位	死亡数	死亡率
昭和25年	1位	121,769	146.4
" 30年	5位	46,735	52.3
" 35年	7位	31,959	34.2
" 40年	7位	22,366	22.8
" 45年	8位	15,899	15.4
" 50年	10位	10,567	9.5
" 55年	13位	6,439	5.5
" 60年	16位	4,692	3.9
平成元年	18位	3,527	2.9
" 2年	17位	3,664	3.0
" 3年	20位	3,325	2.7
" 4年	21位	3,347	2.7
" 5年	21位	3,249	2.6
" 6年	23位	3,094	2.5
" 7年	23位	3,178	2.6
" 8年	22位	2,858	2.3
" 9年	22位	2,742	2.2
" 10年	22位	2,795	2.2
" 11年	21位	2,935	2.3
" 12年	24位	2,656	2.1
" 13年	25位	2,491	2.0
" 14年	25位	2,317	1.8
" 15年	25位	2,337	1.9
" 16年	25位	2,330	1.8
" 17年	25位	2,296	1.8
" 18年	26位	2,269	1.8
" 19年	27位	2,194	1.7
" 20年	25位	2,220	1.8
" 21年	24位	2,159	1.7
" 22年	26位	2,129	1.7
" 23年	25位	2,166	1.7
" 24年	26位	2,110	1.7
" 25年	26位	2,087	1.7
" 26年	26位	2,100	1.7
" 27年	29位	1,956	1.6
" 28年	28位	1,889	1.5

(注) 死亡率は人口10万対
人口動態統計より。平成28年は概数。

平成28年の結核による死亡数は1,889人(概数)で、前年の1,956人に比べ67人減少している。死亡率(人口10万対)は、1.6から1.5に減少したが、死因順位は、29位から28位と、ひとつ順位を上げている。

表4-1. 新登録結核患者数及び罹患率の年次推移

区 分	全結核（新分類）				全結核（旧分類）			
	実数／前年比		罹患率（人口10万対） ／前年比		実数／前年比		罹患率（人口10万対） ／前年比	
平成4年					48,956		39.3	
平成5年					47,437	△1,519	38.0	△1.3
平成6年					44,590	△2,847	35.7	△2.3
平成7年					43,078	△1,512	34.3	△1.4
平成8年					42,472	△606	33.7	△0.6
平成9年					42,715	243	33.9	0.2
平成10年	41,033		32.4		44,016	1,301	34.8	0.9
平成11年	43,818	2,785	34.6	2.2				
平成12年	39,384	△4,434	31.0	△3.6				
平成13年	35,489	△3,895	27.9	△3.1				
平成14年	32,828	△2,661	25.8	△2.1				
平成15年	31,638	△1,190	24.8	△1.0				
平成16年	29,736	△1,902	23.3	△1.5				
平成17年	28,319	△1,417	22.2	△1.1				
平成18年	26,384	△1,935	20.6	△1.6				
平成19年	25,311	△1,073	19.8	△0.8				
平成20年	24,760	△551	19.4	△0.4				
平成21年	24,170	△590	19.0	△0.4				
平成22年	23,261	△909	18.2	△0.8				
平成23年	22,681	△580	17.7	△0.5				
平成24年	21,283	△1,398	16.7	△1.0				
平成25年	20,495	△788	16.1	△0.6				
平成26年	19,615	△880	15.4	△0.7				
平成27年	18,280	△1,335	14.4	△1.0				
平成28年	17,625	△655	13.9	△0.5				

平成28年に、新たに結核患者として登録された者の数（新登録結核患者数）は17,625人で、前年より655人（3.6%）減少している。減少率を見ると、平成26年から平成27年にかけての減少率は6.8%（19,615人→18,280人）であることから、減少幅は3.2ポイント小さくなっている。

平成28年の罹患率（人口10万対）は13.9であり、前年の14.4より0.5（3.5%）減少している。減少率を見ると、平成26年から平成27年にかけての減少率は6.5%であることから、減少幅は3.0ポイント小さくなっている。

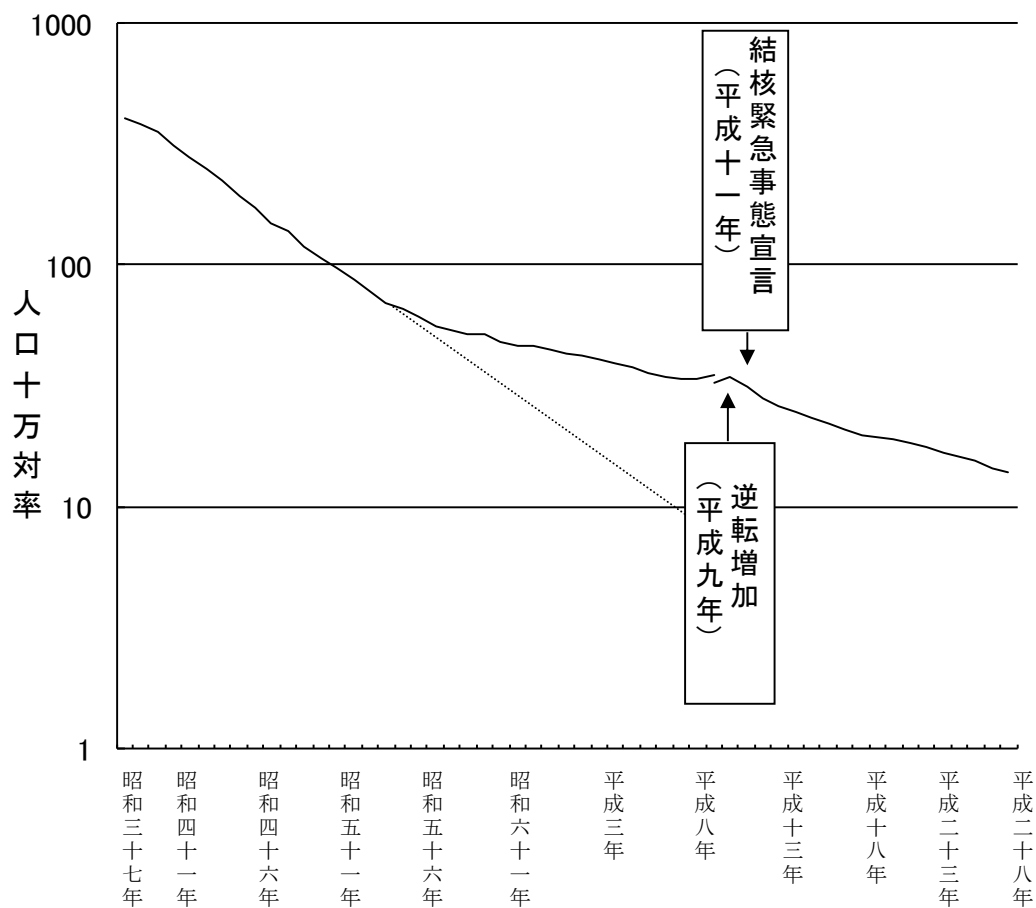
表4-2. 新登録結核患者及び罹患率の年次推移（菌喀痰塗抹陽性肺結核患者数、再掲）

区分	菌喀痰塗抹陽性肺結核(新分類) (再掲)		菌喀痰塗抹陽性患者の割合 (%/全結核)	菌塗抹陽性肺結核(旧分類) (再掲)		菌塗抹陽性患者の割合 (%/全結核)
	実数/前年比	罹患率 (人口10万対)/前年比		実数/前年比	罹患率 (人口10万対)/前年比	
平成4年				15,540	12.5	31.7
平成5年				15,210 △330	12.2 △0.3	32.1
平成6年				14,777 △433	11.8 △0.4	33.1
平成7年				15,103 326	12.0 0.2	35.1
平成8年				15,035 △68	11.9 △0.1	35.4
平成9年				15,967 932	12.7 0.8	37.4
平成10年	13,405	10.6	32.7	16,294 327	12.9 0.2	37.0
平成11年	14,482 1,077	11.4 0.8	33.1			
平成12年	13,220 △1,262	10.4 △1.0	33.6			
平成13年	12,656 △564	9.9 △0.5	35.7			
平成14年	11,933 △723	9.4 △0.5	36.4			
平成15年	11,857 △76	9.3 △0.1	37.5			
平成16年	11,445 △412	9.0 △0.3	38.5			
平成17年	11,318 △127	8.9 △0.1	40.0			
平成18年	10,492 △826	8.2 △0.7	39.8			
平成19年	10,204 △288	8.0 △0.2	40.3			
平成20年	9,809 △395	7.7 △0.3	39.6			
平成21年	9,675 △134	7.6 △0.1	40.0			
平成22年	9,019 △656	7.0 △0.6	38.8			
平成23年	8,654 △365	6.8 △0.2	38.2			
平成24年	8,237 △417	6.5 △0.3	38.7			
平成25年	8,119 △118	6.4 △0.1	39.6			
平成26年	7,651 △468	6.0 △0.4	39.0			
平成27年	7,131 △520	5.6 △0.4	39.0			
平成28年	6,642 △489	5.2 △0.4	37.7			

菌喀痰塗抹陽性肺結核の患者数は6,642人で、前年より489人（6.9%）減少している。

菌喀痰塗抹陽性肺結核の罹患率（人口10万対）は5.2であり、前年の5.6より0.4減少している。菌喀痰塗抹陽性肺結核の患者が全体に占める割合は37.7%で、前年と比べて1.3ポイント減少している。

図1. 結核罹患率の推移(全結核)



平成28年の罹患率（人口10万対）は13.9であり、前年の14.4より0.5（3.5%）減少している。減少率を見ると、平成26年から平成27年にかけての減少率は6.5%であることから、減少幅は3.0ポイント小さくなっている。

表5-1. 年次別・年齢階級別 新登録結核患者数

() 内は構成比

区 分	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年
総 数	21,283 (100.0)	20,495 (100.0)	19,615 (100.0)	18,280 (100.0)	17,625 (100.0)
0～4歳	30 (0.1)	27 (0.1)	17 (0.1)	29 (0.2)	26 (0.1)
5～9歳	12 (0.1)	14 (0.1)	15 (0.1)	9 (0.0)	11 (0.1)
10～14歳	21 (0.1)	25 (0.1)	17 (0.1)	13 (0.1)	22 (0.1)
15～19歳	165 (0.8)	165 (0.8)	168 (0.9)	163 (0.9)	190 (1.1)
20～29歳	1,288 (6.1)	1,196 (5.8)	1,188 (6.1)	1,127 (6.2)	1,235 (7.0)
30～39歳	1,528 (7.2)	1,317 (6.4)	1,235 (6.3)	1,101 (6.0)	1,004 (5.7)
40～49歳	1,600 (7.5)	1,496 (7.3)	1,440 (7.3)	1,363 (7.5)	1,228 (7.0)
50～59歳	1,795 (8.4)	1,665 (8.1)	1,514 (7.7)	1,351 (7.4)	1,295 (7.3)
60～69歳	3,012 (14.2)	2,833 (13.8)	2,597 (13.2)	2,359 (12.9)	2,213 (12.6)
70～79歳	4,595 (21.6)	4,359 (21.3)	4,028 (20.5)	3,757 (20.6)	3,407 (19.3)
80～89歳	5,753 (27.0)	5,856 (28.6)	5,753 (29.3)	5,317 (29.1)	5,138 (29.2)
90歳以上	1,484 (7.0)	1,542 (7.5)	1,643 (8.4)	1,691 (9.3)	1,856 (10.5)

年齢階級別の新登録結核患者数では、0～14歳の小児結核で8人増加している。また、15～19歳で27人、20～29歳で108人増加している。高齢層では、70～79歳で最も大きい350人の減少となったが、90歳以上では165人の増加となっている。各年齢階層別で全体に占める割合は、80～89歳が29.2%と最も多くなっているが、平成26年以降増加傾向は見られない。一方、90歳以上では10.5%となっており、増加傾向にある。

表5-2. 年次別・年齢階級別 菌喀痰塗抹陽性肺結核新登録患者数

() 内は構成比

区 分	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年
総 数	8,237 (100.0)	8,119 (100.0)	7,651 (100.0)	7,131 (100.0)	6,642 (100.0)
0～4歳	1 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.0)	0 (0.0)
5～9歳	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
10～14歳	4 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.0)	1 (0.0)	3 (0.0)
15～19歳	40 (0.5)	49 (0.6)	36 (0.5)	41 (0.6)	47 (0.7)
20～29歳	337 (4.1)	357 (4.4)	329 (4.3)	292 (4.1)	282 (4.2)
30～39歳	448 (5.4)	412 (5.1)	341 (4.5)	348 (4.9)	282 (4.2)
40～49歳	555 (6.7)	523 (6.4)	480 (6.3)	454 (6.4)	386 (5.8)
50～59歳	680 (8.3)	663 (8.2)	597 (7.8)	535 (7.5)	453 (6.8)
60～69歳	1,161 (14.1)	1,119 (13.8)	1,010 (13.2)	935 (13.1)	852 (12.8)
70～79歳	1,801 (21.9)	1,682 (20.7)	1,578 (20.6)	1,408 (19.7)	1,252 (18.8)
80～89歳	2,532 (30.7)	2,610 (32.1)	2,557 (33.4)	2,347 (32.9)	2,215 (33.3)
90歳以上	678 (8.2)	704 (8.7)	722 (9.4)	769 (10.8)	870 (13.1)

年齢階級別の菌喀痰塗抹陽性肺結核新登録患者数は、10～19歳で8名の増加であったが、20～29歳では10人の減少となっている。減少幅は70～79歳が最も大きく、156人の減少となっている。各年齢階層別で全体に占める割合は、80～89歳が33.3%と最も大きくなっている。

表5-3. 年次別・年齢階級別 新登録小児結核中の粟粒結核および結核性髄膜炎患者数

区 分	平成 24年		平成 25年		平成 26年		平成 27年		平成 28年	
	粟粒結核	結核性髄膜炎	粟粒結核	結核性髄膜炎	粟粒結核	結核性髄膜炎	粟粒結核	結核性髄膜炎	粟粒結核	結核性髄膜炎
合計	0	1	0	2	2	5	1	1	1	2
0～4歳	0	1	0	2	1	2	0	1	1	2
5～9歳	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0
10～14歳	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0

合計は小児結核(0～14歳)の合計、粟粒結核と結核性髄膜炎の重複あり

平成28年患者の詳細

粟粒結核、結核性髄膜炎 0歳、日本出生1名、BCG接種歴不明。

結核性髄膜炎 0歳、日本出生1名、BCG接種歴不明。

平成27年患者の詳細

粟粒結核 12歳、日本出生1名、BCG接種歴不明。

結核性髄膜炎 0歳、日本出生1名、BCG接種歴不明。

平成26年患者の詳細

粟粒結核、結核性髄膜炎 0歳、日本出生1名、BCG接種歴無し。

粟粒結核 14歳、外国出生1名、BCG接種歴不明。

結核性髄膜炎 0歳、日本出生1名、BCG接種歴あり。

結核性髄膜炎 5歳、日本出生1名、BCG接種歴不明。

結核性髄膜炎 9歳、日本出生1名、BCG接種歴あり。

結核性髄膜炎 9歳、外国出生1名、BCG接種歴あり。

平成28年に登録された小児結核患者(15歳未満)のうち、重症結核例である粟粒結核及び結核性髄膜炎患者数は2人(いずれも0歳児)であったが、うち1人は粟粒結核と結核性髄膜炎の併発であった。

表5-4. 年次別・年齢階級別 潜在性結核感染症（LTBI）新登録者数

（ ）内は構成比

区分	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年
総数	8,771 (100.0)	7,147 (100.0)	7,562 (100.0)	6,675 (100.0)	7,477 (100.0)
0～4歳	499 (5.7)	493 (6.9)	514 (6.8)	420 (6.3)	419 (5.6)
5～9歳	219 (2.5)	163 (2.3)	140 (1.9)	131 (2.0)	96 (1.3)
10～14歳	177 (2.0)	202 (2.8)	86 (1.1)	110 (1.6)	83 (1.1)
15～19歳	276 (3.1)	188 (2.6)	173 (2.3)	124 (1.9)	162 (2.2)
20～29歳	1,632 (18.6)	1,047 (14.6)	1,017 (13.4)	746 (11.2)	896 (12.0)
30～39歳	1,769 (20.2)	1,202 (16.8)	1,162 (15.4)	933 (14.0)	888 (11.9)
40～49歳	1,681 (19.2)	1,286 (18.0)	1,347 (17.8)	1,042 (15.6)	1,148 (15.4)
50～59歳	1,322 (15.1)	1,173 (16.4)	1,212 (16.0)	1,063 (15.9)	1,200 (16.0)
60～69歳	805 (9.2)	819 (11.5)	1,050 (13.9)	1,020 (15.3)	1,261 (16.9)
70～79歳	272 (3.1)	413 (5.8)	600 (7.9)	709 (10.6)	839 (11.2)
80歳以上	119 (1.4)	161 (2.3)	261 (3.5)	377 (5.6)	485 (6.5)

平成28年に新たに登録された潜在性結核感染症の者の数は7,477人で、前年より802人の増加となっている。年齢階級別では、60～69歳で241人の増加と最も大きくなっている。また、20～29歳でも150人の増加となっている。

表5-5. 年次別・年齢階級別 新登録結核患者数に対する潜在性結核感染症（LTBI）新登録者数の比

（比：潜在性結核感染症新登録者数／新登録結核患者数）

区分	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年
総数	0.4	0.3	0.4	0.4	0.4
0～4歳	16.6	18.3	30.2	14.5	16.1
5～9歳	18.3	11.6	9.3	14.6	8.7
10～14歳	8.4	8.1	5.1	8.5	3.8
15～19歳	1.7	1.1	1.0	0.8	0.9
20～29歳	1.3	0.9	0.9	0.7	0.7
30～39歳	1.2	0.9	0.9	0.8	0.9
40～49歳	1.1	0.9	0.9	0.8	0.9
50～59歳	0.7	0.7	0.8	0.8	0.9
60～69歳	0.3	0.3	0.4	0.4	0.6
70～79歳	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2
80歳以上	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1

新登録結核患者数に対する潜在性結核感染症新登録者数の比は、14歳以下の年齢で1以上となっており、潜在性結核感染症新登録患者数の方が多くなっている。15歳以上の年齢階級では、いずれも1未満となっており、新登録結核患者数の方が多くなっている。

表5-6. 年次別・職業別 潜在性結核感染症（LTBI）新登録者数

（ ）内は構成比

区 分	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成28年/27年
総 数	8,771 (100.0)	7,147 (100.0)	7,562 (100.0)	6,675 (100.0)	7,477 (100.0)	1.1
看護師・保健師	2,036 (23.2)	1,277 (17.9)	1,164 (15.4)	896 (13.4)	940 (12.6)	1.0
医師	370 (4.2)	222 (3.1)	183 (2.4)	137 (2.1)	169 (2.3)	1.2
その他医療職・介護職	992 (11.3)	820 (11.5)	858 (11.3)	752 (11.3)	750 (10.0)	1.0
接客業等	238 (2.7)	228 (3.2)	214 (2.8)	218 (3.3)	206 (2.8)	0.9
教員・保育士	75 (0.9)	73 (1.0)	82 (1.1)	64 (1.0)	74 (1.0)	1.2
上記以外の常用勤労者	1,781 (20.3)	1,404 (19.6)	1,603 (21.2)	1,210 (18.1)	1,392 (18.6)	1.2
上記以外の臨時雇、日雇	309 (3.5)	253 (3.5)	253 (3.3)	223 (3.3)	359 (4.8)	1.6
上記以外の自営業・自由業	183 (2.1)	186 (2.6)	208 (2.8)	214 (3.2)	230 (3.1)	1.1
家事従事者	201 (2.3)	161 (2.3)	170 (2.2)	145 (2.2)	144 (1.9)	1.0
無職・その他	1,116 (12.7)	1,212 (17.0)	1,577 (20.9)	1,681 (25.2)	2,088 (27.9)	1.2
乳幼児	395 (4.5)	380 (5.3)	382 (5.1)	332 (5.0)	343 (4.6)	1.0
保育園、幼稚園児・小中学生	488 (5.6)	445 (6.2)	325 (4.3)	314 (4.7)	243 (3.2)	0.8
高校生以上の生徒学生等	440 (5.0)	332 (4.6)	418 (5.5)	287 (4.3)	410 (5.5)	1.4
不明	147 (1.7)	154 (2.2)	125 (1.7)	202 (3.0)	129 (1.7)	0.6

職業別では、全体の潜在性結核感染症新登録者数に占める医療職の割合が、前年の26.8%から24.9%に減少している。一方、無職・その他が全体に占める割合は、前年の25.2%から27.9%と、平成24年の12.7%から2倍以上の増加となっている。

表5-7. 年次別・年齢階級別 外国生まれ新登録結核患者数

（ ）内は新登録に占める割合

区 分	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年
総 数	1,069 (5.0)	1,064 (5.2)	1,101 (5.6)	1,164 (6.4)	1,338 (7.6)
0～4歳	2 (6.7)	1 (3.7)	3 (17.6)	3 (10.3)	2 (7.7)
5～9歳	2 (16.7)	2 (14.3)	2 (13.3)	0 (0.0)	3 (27.3)
10～14歳	3 (14.3)	4 (16.0)	3 (17.6)	6 (46.2)	7 (31.8)
15～19歳	42 (25.5)	48 (29.1)	56 (33.3)	57 (35.0)	82 (43.2)
20～29歳	468 (36.3)	494 (41.3)	511 (43.0)	565 (50.1)	712 (57.7)
30～39歳	237 (15.5)	225 (17.1)	243 (19.7)	252 (22.9)	258 (25.7)
40～49歳	181 (11.3)	147 (9.8)	151 (10.5)	134 (9.8)	139 (11.3)
50～59歳	63 (3.5)	65 (3.9)	71 (4.7)	74 (5.5)	66 (5.1)
60～69歳	33 (1.1)	30 (1.1)	26 (1.0)	27 (1.1)	33 (1.5)
70～79歳	17 (0.4)	25 (0.6)	16 (0.4)	19 (0.5)	15 (0.4)
80歳以上	21 (0.3)	23 (0.3)	19 (0.3)	27 (0.4)	21 (0.3)

外国生まれ新登録結核患者数は、前年から174人増加し、1,338人となった。最も増加したのは20～29歳であり、前年から147人増加し、712人となっている。また、20～29歳の新登録結核患者における外国生まれの者の割合も前年から7.6ポイントの増加し、57.7%となっている。

表5-8. 年次別・年齢階級別 外国生まれ新登録結核患者数（入国5年以内、再掲）
 （ ）内は全外国生まれ新登録患者に占める割合

区 分	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年
総 数	400 (37.4)	432 (40.6)	437 (39.7)	505 (43.4)	608 (45.4)
0～4歳	1 (50.0)	1 (100.0)	1 (33.3)	2 (66.7)	1 (50.0)
5～9歳	0 (0.0)	2 (100.0)	2 (100.0)	0 (-)	0 (0.0)
10～14歳	3 (100.0)	4 (100.0)	1 (33.3)	3 (50.0)	5 (71.4)
15～19歳	27 (64.3)	28 (58.3)	37 (66.1)	33 (57.9)	44 (53.7)
20～29歳	271 (57.9)	303 (61.3)	301 (58.9)	351 (62.1)	432 (60.7)
30～39歳	64 (27.0)	62 (27.6)	60 (24.7)	79 (31.3)	89 (34.5)
40～49歳	18 (9.9)	15 (10.2)	20 (13.2)	17 (12.7)	20 (14.4)
50～59歳	8 (12.7)	3 (4.6)	6 (8.5)	11 (14.9)	11 (16.7)
60～69歳	5 (15.2)	8 (26.7)	8 (30.8)	1 (3.7)	2 (6.1)
70～79歳	3 (17.6)	4 (16.0)	1 (6.3)	6 (31.6)	4 (26.7)
80歳以上	0 (0.0)	2 (8.7)	0 (0.0)	2 (7.4)	0 (0.0)

外国生まれ新登録結核患者のうち、入国5年以内の者は、前年の505人から103人増加し608人となった。特に20～29歳の年齢階級では、前年から81人増加し、432人となっている。

表6-1. 年次別・年齢階級別 結核罹患率

(人口10万対)

区 分	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年
総 数	16.7	16.1	15.4	14.4	13.9
0～4歳	0.6	0.5	0.3	0.6	0.5
5～9歳	0.2	0.3	0.3	0.2	0.2
10～14歳	0.4	0.4	0.3	0.2	0.4
15～19歳	2.7	2.7	2.8	2.8	3.1
20～29歳	9.7	9.1	9.2	9.0	9.8
30～39歳	8.9	7.9	7.7	7.1	6.5
40～49歳	9.1	8.3	7.8	7.5	6.5
50～59歳	11.5	10.8	9.8	8.8	8.4
60～69歳	16.3	15.4	14.3	13.1	12.0
70～79歳	33.7	31.4	28.4	26.9	24.5
80～89歳	77.6	76.2	72.5	66.0	60.8
90歳以上	97.1	95.6	95.7	92.0	96.3

年齢階級別の結核罹患率は、高齢層ほど高く、60～69歳で12.0、70～79歳で24.5、80～89歳で60.8、90歳以上では96.3となっている。

表6-2. 年次別・年齢階級別 結核罹患率（菌喀痰塗抹陽性肺結核患者、再掲）

区 分	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年
総 数	6.5	6.4	6.0	5.6	5.2
0～4歳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5～9歳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
10～14歳	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1
15～19歳	0.7	0.8	0.6	0.7	0.8
20～29歳	2.5	2.7	2.6	2.3	2.2
30～39歳	2.6	2.5	2.1	2.3	1.8
40～49歳	3.1	2.9	2.6	2.5	2.0
50～59歳	4.4	4.3	3.9	3.5	2.9
60～69歳	6.3	6.1	5.6	5.2	4.6
70～79歳	13.2	12.1	11.1	10.1	9.0
80～89歳	34.2	34.0	32.2	29.1	26.2
90歳以上	44.4	43.6	42.1	41.8	45.1

菌喀痰塗抹陽性肺結核の罹患率も、同様に、高齢層ほど高くなっている。70歳代までは10未満であったが、80～89歳で26.2、90歳以上では45.1となっている。

表7-1. 新登録結核患者数 都道府県別・年次推移

都道府県名	新登録結核患者数（人）					備考	（再掲）菌略痰塗抹陽性肺結核患者数（人）				
	24年	25年	26年	27年	28年		24年	25年	26年	27年	28年
全国	21,283	20,495	19,615	18,280	17,625		8,237	8,119	7,651	7,131	6,642
北海道	586	553	568	533	518		245	207	228	216	163
青森	183	176	185	182	171		85	91	76	81	72
岩手	166	149	158	136	131		61	64	61	54	54
宮城	231	223	209	198	185		96	90	89	75	87
秋田	137	108	98	87	86		57	49	38	29	43
山形	115	131	119	82	80		34	53	61	27	22
福島	194	228	185	188	163		73	109	81	83	61
茨城	401	382	387	345	354	↑	154	139	133	109	115
栃木	266	231	252	229	218		106	86	101	89	88
群馬	232	228	204	192	183		97	82	85	63	68
埼玉	1,100	1,050	1,018	955	979	↑	455	409	417	347	358
千葉	888	921	876	878	906	↑	319	335	331	315	312
東京	2,874	2,671	2,533	2,306	2,340	↑	1,076	1,006	927	877	848
神奈川	1,395	1,353	1,329	1,311	1,192		528	527	496	462	424
新潟	272	269	214	232	216		97	98	74	100	81
富山	140	152	131	125	117		49	57	51	45	41
石川	161	152	149	149	126		65	57	50	65	41
福井	99	109	108	72	87	↑	40	20	35	18	27
山梨	100	65	77	73	72		51	21	33	28	28
長野	203	194	170	175	165		92	73	74	82	72
岐阜	380	376	342	314	329	↑	152	145	123	128	114
静岡	543	560	510	442	425		187	226	200	173	179
愛知	1,419	1,424	1,305	1,199	1,270	↑	557	598	521	458	478
三重	252	239	237	244	241		90	98	76	92	84
滋賀	170	182	166	157	152		58	74	62	68	55
京都	474	456	498	376	410	↑	183	192	191	149	155
大阪	2,400	2,336	2,168	2,074	1,945		1,030	1,019	897	901	837
兵庫	1,096	1,098	1,036	945	844		436	456	416	388	331
奈良	285	244	230	230	191		96	93	104	90	75
和歌山	185	202	190	150	131		74	76	80	55	59
鳥取	80	76	87	90	66		24	23	32	34	24
島根	128	110	95	102	87		49	44	28	38	24
岡山	283	232	254	235	208		99	83	96	99	83
広島	411	383	386	324	324		175	168	143	139	120
山口	260	227	163	187	178		98	89	68	66	45
徳島	164	131	124	106	120	↑	52	36	56	39	44
香川	166	177	171	144	138		62	66	67	51	58
愛媛	189	171	188	167	133		77	64	69	63	44
高知	98	109	112	108	92		46	56	49	36	39
福岡	849	816	774	773	720		293	300	291	279	242
佐賀	143	149	127	135	106		62	64	53	65	49
長崎	286	278	307	217	218	↑	103	106	99	78	79
熊本	289	277	281	282	232		110	104	100	104	98
大分	207	228	203	199	185		88	106	86	100	88
宮崎	170	157	169	161	143		70	81	89	87	66
鹿児島	314	261	281	257	245		93	96	117	99	94
沖縄	299	251	241	214	203		93	83	97	87	73
指定都市（再掲）											
札幌	180	188	190	183	160		66	63	64	67	46
仙台	111	101	102	93	87		48	44	42	34	37
さいたま	198	190	188	168	182	↑	86	67	89	65	74
千葉	150	149	154	157	158	↑	64	56	52	63	57
横浜	611	554	578	565	538		244	209	203	210	183
川崎	264	270	229	226	249	↑	89	109	93	64	85
相模原	97	109	96	79	57		35	37	33	25	23
新潟	88	81	78	86	79		41	37	26	38	30
静岡	96	112	127	107	97		34	43	54	41	45
浜松	129	142	122	78	105	↑	38	52	48	34	41
名古屋	575	601	528	514	494		209	251	211	197	187
京都	282	286	321	239	246	↑	106	128	125	90	90
大阪	1,142	1,058	988	925	887		512	488	456	412	394
堺	235	222	181	185	163		105	93	82	96	69
神戸	376	369	330	328	285		132	148	125	118	108
岡山	92	72	92	81	77		28	27	33	36	28
広島	162	136	135	116	109		69	67	59	55	38
北九州	194	193	183	182	173		59	71	76	66	60
福岡	231	226	218	222	192		87	90	75	80	72
熊本	115	96	98	125	85		39	40	35	37	29
東京都特別区	2,177	2,034	1,937	1,761	1,774	↑	829	791	719	658	643

（注）備考欄において「↑」は28年の新登録数が27年を上回ったものを表す。

都道府県別の新登録結核患者数は、47都道府県のうち10の都府県で増加している。新登録結核患者数が最も多いのは東京都の2,340人で、次いで大阪府の1,945人となっている。

表7-2. 結核罹患率 都道府県別・年次推移

都道府県名	罹患率（人口10万対）					備考	（再掲）菌喀痰塗抹陽性肺結核罹患率（人口10万対）				
	24年	25年	26年	27年	28年		24年	25年	26年	27年	28年
全国	16.7	16.1	15.4	14.4	13.9		6.5	6.4	6.0	5.6	5.2
北海道	10.7	10.2	10.5	9.9	9.7		4.5	3.8	4.2	4.0	3.0
青森	13.6	13.2	14.0	13.9	13.2		6.3	6.8	5.8	6.2	5.6
岩手	12.7	11.5	12.3	10.6	10.3		4.7	4.9	4.7	4.2	4.3
宮城	9.9	9.6	9.0	8.5	7.9	○3	4.1	3.9	3.8	3.2	3.7
秋田	12.9	10.3	9.5	8.5	8.5	↑○4	5.4	4.7	3.7	2.8	4.3
山形	10.0	11.5	10.5	7.3	7.2	○1	3.0	4.6	5.4	2.4	2.0
福島	9.9	11.7	9.6	9.8	8.6	○5	3.7	5.6	4.2	4.3	3.2
茨城	13.6	13.0	13.3	11.8	12.2	↑	5.2	4.7	4.6	3.7	4.0
栃木	13.4	11.6	12.7	11.6	11.1		5.3	4.3	5.1	4.5	4.5
群馬	11.6	11.5	10.3	9.7	9.3		4.9	4.1	4.3	3.2	3.5
埼玉	15.3	14.5	14.1	13.2	13.4	↑	6.3	5.7	5.8	4.8	4.9
千葉	14.3	14.9	14.1	14.1	14.5	↑	5.1	5.4	5.3	5.1	5.0
東京	21.7	20.1	18.9	17.1	17.2	↑△2	8.1	7.6	6.9	6.5	6.2
神奈川	15.4	14.9	14.6	14.4	13.0		5.8	5.8	5.5	5.1	4.6
新潟	11.6	11.5	9.3	10.1	9.4		4.1	4.2	3.2	4.3	3.5
富山	12.9	14.1	12.2	11.7	11.0		4.5	5.3	4.8	4.2	3.9
石川	13.8	13.1	12.9	12.9	10.9		5.6	4.9	4.3	5.6	3.6
福井	12.4	13.7	13.7	9.1	11.1	↑	5.0	2.5	4.4	2.3	3.5
山梨	11.7	7.7	9.2	8.7	8.7		6.0	2.5	3.9	3.4	3.4
長野	9.5	9.1	8.1	8.3	7.9	○2	4.3	3.4	3.5	3.9	3.4
岐阜	18.4	18.3	16.8	15.4	16.3	↑△4	7.4	7.1	6.0	6.3	5.6
静岡	14.5	15.0	13.8	11.9	11.5		5.0	6.1	5.4	4.7	4.9
愛知	19.1	19.1	17.5	16.0	16.9	↑△3	7.5	8.0	7.0	6.1	6.4
三重	13.7	13.0	13.0	13.4	13.3		4.9	5.3	4.2	5.1	4.6
滋賀	12.0	12.9	11.7	11.1	10.8		4.1	5.2	4.4	4.8	3.9
京都	18.1	17.4	19.1	14.4	15.7	↑	7.0	7.3	7.3	5.7	5.9
大阪	27.1	26.4	24.5	23.5	22.0	△1	11.6	11.5	10.2	10.2	9.5
兵庫	19.7	19.8	18.7	17.1	15.3		7.8	8.2	7.5	7.0	6.0
奈良	20.5	17.6	16.7	16.8	14.1		6.9	6.7	7.6	6.6	5.5
和歌山	18.7	20.6	19.6	15.6	13.7		7.5	7.8	8.2	5.7	6.2
鳥取	13.8	13.2	15.2	15.7	11.6		4.1	4.0	5.6	5.9	4.2
島根	18.1	15.7	13.6	14.7	12.6		6.9	6.3	4.0	5.5	3.5
岡山	14.6	12.0	13.2	12.2	10.9		5.1	4.3	5.0	5.2	4.3
広島	14.4	13.5	13.6	11.4	11.4	↑	6.1	5.9	5.0	4.9	4.2
山口	18.2	16.0	11.6	13.3	12.8		6.9	6.3	4.8	4.7	3.2
徳島	21.1	17.0	16.2	14.0	16.0	↑△5	6.7	4.7	7.3	5.2	5.9
香川	16.8	18.0	17.4	14.7	14.2		6.3	6.7	6.8	5.2	6.0
愛媛	13.4	12.2	13.5	12.1	9.7		5.4	4.6	4.9	4.5	3.2
高知	13.0	14.6	15.2	14.8	12.8		6.1	7.5	6.6	4.9	5.4
福岡	16.7	16.0	15.2	15.1	14.1		5.8	5.9	5.7	5.5	4.7
佐賀	17.0	17.7	15.2	16.2	12.8		7.4	7.6	6.3	7.8	5.9
長崎	20.3	19.9	22.1	15.7	15.9	↑	7.3	7.6	7.1	5.7	5.8
熊本	16.0	15.4	15.7	15.8	13.1		6.1	5.8	5.6	5.8	5.5
大分	17.5	19.3	17.3	17.1	16.0		7.4	9.0	7.3	8.6	7.6
宮崎	15.1	14.0	15.2	14.6	13.0		6.2	7.2	8.0	7.9	6.0
鹿児島	18.6	15.5	16.8	15.6	15.0		5.5	5.7	7.0	6.0	5.7
沖縄	21.2	17.7	17.0	14.9	14.1		6.6	5.9	6.8	6.1	5.1
指定都市（再掲）											
札幌	9.3	9.7	9.8	9.4	8.2		3.4	3.3	3.3	3.4	2.3
仙台	10.5	9.5	9.5	8.6	8.0		4.5	4.1	3.9	3.1	3.4
さいたま	15.9	15.2	14.9	13.2	14.2	↑	6.9	5.4	7.1	5.1	5.8
千葉	15.6	15.5	15.9	16.1	16.2	↑	6.6	5.8	5.4	6.5	5.9
横浜	16.5	15.0	15.6	15.2	14.4		6.6	5.6	5.5	5.6	4.9
川崎	18.3	18.6	15.7	15.3	16.7	↑	6.2	7.5	6.4	4.3	5.7
相模原	13.5	15.1	13.3	11.0	7.9		4.9	5.1	4.6	3.5	3.2
新潟	10.8	10.0	9.7	10.6	9.8		5.1	4.6	3.2	4.7	3.7
静岡	13.5	15.8	18.0	15.2	13.7		4.8	6.1	7.6	5.8	6.3
浜松	15.8	17.9	15.4	9.8	13.2	↑	4.7	6.6	6.1	4.3	5.1
名古屋	25.4	26.5	23.2	22.4	21.4		9.2	11.1	9.3	8.6	8.1
京都	19.2	19.4	21.8	16.2	16.7	↑	7.2	8.7	8.5	6.1	6.1
大阪	42.7	39.4	36.8	34.4	32.8		19.1	18.2	17.0	15.3	14.6
堺	27.9	26.4	21.5	22.0	19.5		12.5	11.1	9.8	11.4	8.2
神戸	24.4	24.0	21.5	21.3	18.6		8.6	9.6	8.1	7.7	7.0
岡山	12.9	10.1	12.9	11.4	10.9		3.9	3.8	4.6	5.1	4.0
広島	13.7	11.5	11.4	9.7	9.1		5.8	5.7	5.0	4.6	3.2
北九州	20.0	19.9	19.0	18.9	18.1		6.1	7.3	7.9	6.9	6.3
福岡	15.5	15.0	14.3	14.4	12.4		5.8	6.0	4.9	5.2	4.6
熊本	15.6	13.0	13.2	16.9	11.5		5.3	5.4	4.7	5.0	3.9
東京都特別区	24.3	22.5	21.2	19.1	18.9		9.3	8.7	7.9	7.1	6.9

注1) 備考欄において「↑」は28年の罹患率が27年を上回ったもの、「○1」は罹患率下位1位を、「△1」は罹患率上位1位を表す。

注2) 太枠は平成28年の罹患率が結核低まん延の水準である10を下回った都道府県および政令指定都市。

都道府県別の結核罹患率は、47都道府県のうち12の都府県で増加している。一方、結核低まん延の水準である罹患率が10を下回った県は、前年の9県から10県に増えている。最も低い山形県の結核罹患率は7.2となっている。

表 8. 年末時結核登録者数及び有病率の年次推移

区 分	総数／前年比		活 動 性 全 結 核			
			患者数／前年比		有病率(人口10万対) /前年比	
平成 6年	181,470	△10,114	70,781	△5,894	56.6	△4.9
平成 7年	168,581	△12,889	65,167	△5,614	51.9	△4.7
平成 8年	132,958	△35,623	59,760	△5,407	47.5	△4.4
平成 9年	121,762	△11,196	55,409	△4,351	43.9	△3.6
平成10年	107,058		49,205		38.9	
平成11年	104,813	△2,245	48,888	△317	38.6	△0.3
平成12年	99,481	△5,332	41,971	△6,917	33.1	△5.5
平成13年	91,395	△8,086	36,288	△5,683	28.5	△4.6
平成14年	82,974	△8,421	32,396	△3,892	25.4	△3.1
平成15年	77,211	△5,763	29,717	△2,679	23.3	△2.1
平成16年	72,079	△5,132	26,945	△2,772	21.1	△2.2
平成17年	68,508	△3,571	23,969	△2,976	18.8	△2.3
平成18年	65,695	△2,813	21,976	△1,993	17.2	△1.6
平成19年	63,556	△2,139	20,637	△1,339	16.2	△1.0
平成20年	62,244	△1,312	20,021	△ 616	15.7	△0.5
平成21年	59,573	△2,671	18,915	△1,106	14.8	△0.9
平成22年	55,573	△4,000	17,927	△988	14.0	△0.8
平成23年	55,196	△377	17,264	△663	13.5	△0.5
平成24年	52,173	△3,023	14,858	△2,406	11.7	△1.8
平成25年	49,814	△2,359	13,957	△901	11.0	△0.7
平成26年	47,845	△1,969	13,513	△444	10.6	△0.4
平成27年	44,888	△2,957	12,534	△979	9.9	△0.7
平成28年	42,299	△2,589	11,717	△817	9.2	△0.7

平成10年以降は新分類

平成28年末現在の結核登録者数は42,299人と、前年の44,888人より2,589人減少している。そのうち、活動性全結核の患者数は11,717人と、前年より817人減少している。また、平成28年末の結核有病率は、前年の9.9から0.7減少し、9.2となっている。

表9. 年次別 前回治療開始年代別再治療者数（割合）

前回治療開始年	2012年登録者	2013年登録者	2014年登録者	2015年登録者	2016年登録者
総数	1,335 (100%)	1,262 (100%)	1,179 (100%)	1,032 (100%)	908 (100%)
1940年代以前	97 (7.3)	106 (8.4)	101 (8.6)	63 (6.1)	61 (6.7)
1950年代	190 (14.2)	177 (14.0)	136 (11.5)	154 (14.9)	123 (13.5)
1960年代	99 (7.4)	76 (6.0)	82 (7.0)	74 (7.2)	50 (5.5)
1970年代	52 (3.9)	56 (4.4)	46 (3.9)	30 (2.9)	30 (3.3)
1980年代	54 (4.0)	38 (3.0)	39 (3.3)	23 (2.2)	29 (3.2)
1990年代	92 (6.9)	66 (5.2)	71 (6.0)	66 (6.4)	48 (5.3)
2000年代	407 (30.5)	277 (21.9)	236 (20.0)	169 (16.4)	137 (15.1)
2010年代以降	342 (25.6)	466 (36.9)	468 (39.7)	453 (43.9)	430 (47.4)
不明	2 (0.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
（再掲）2010年代の再治療者数					
2010年	138 (40.4)	90 (19.3)	56 (12.0)	43 (9.5)	28 (6.5)
2011年	167 (48.8)	152 (32.6)	88 (18.8)	37 (8.2)	32 (7.4)
2012年	37 (10.8)	171 (36.7)	136 (29.1)	73 (16.1)	45 (10.5)
2013年	-	53 (11.4)	158 (33.8)	119 (26.3)	76 (17.7)
2014年	-	-	30 (6.4)	141 (31.1)	94 (21.9)
2015年	-	-	-	40 (8.8)	113 (26.3)
2016年	-	-	-	-	42 (9.8)

（注）前回治療開始年は、登録情報あるいは本人・家族等への問診による。
 対象は 2012～2016年新登録者で治療歴が再治療の患者。前回治療年が今回の登録年に近い者には、「登録中の再登録」による者が多いと推察される。

平成28年新登録結核患者のうちの再治療患者は、千人を下回って908人となっている。このうち、前回治療年が2000年以降の者は567人で、さらに2010年以降の者が430人と再治療患者のうち47.4%となっている。

表10-1. 発病から初診までの期間が2か月以上の割合
有症状肺結核

	発病～初診までの期間が 2か月以上の割合(%)
平成14年	19.3
平成15年	18.8
平成16年	18.8
平成17年	18.2
平成18年	19.4
平成19年	18.0
平成20年	18.2
平成21年	17.9
平成22年	18.3
平成23年	18.6
平成24年	18.7
平成25年	18.1
平成26年	18.8
平成27年	20.0
平成28年	19.7

(再掲) 30-59歳有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核

	発病～初診までの期間が 2か月以上の割合(%)
平成14年	34.2
平成15年	32.3
平成16年	31.6
平成17年	31.4
平成18年	33.2
平成19年	32.1
平成20年	32.3
平成21年	30.7
平成22年	32.6
平成23年	32.9
平成24年	33.7
平成25年	31.5
平成26年	38.0
平成27年	37.1
平成28年	33.3

平成28年の新登録肺結核患者のうち有症状の者の中で、受診が遅れる（症状発現から受診までの期間が2か月以上の割合）患者の割合は、19.7%となっている。このうち30～59歳の有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核患者に限定すると、受診が遅れる患者の割合は33.3%となっている。

表10-2. 初診から診断（登録）までの期間が1か月以上の割合

有症状肺結核

	初診～診断までの期間が 1か月以上の割合(%)
平成14年	27.2
平成15年	26.0
平成16年	25.0
平成17年	25.7
平成18年	24.3
平成19年	21.7
平成20年	19.9
平成21年	20.4
平成22年	22.6
平成23年	22.7
平成24年	22.0
平成25年	22.1
平成26年	21.6
平成27年	21.5
平成28年	22.0

(再掲) 30-59歳有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核

	初診～診断までの期間が 1か月以上の割合(%)
平成14年	15.1
平成15年	14.6
平成16年	14.1
平成17年	14.6
平成18年	13.9
平成19年	13.2
平成20年	10.6
平成21年	10.9
平成22年	13.6
平成23年	14.8
平成24年	15.0
平成25年	13.9
平成26年	13.7
平成27年	13.6
平成28年	16.1

平成14年～18年までは初診から登録までの期間、平成19年以降は初診から診断までの期間

診断が遅れる（受診から結核の診断までの期間が1か月以上）患者の割合は、22.0%となっている。

表10-3. 発病から診断（登録）までの期間が3か月以上の割合

有症状肺結核

	発病～診断までの期間が 3か月以上の割合(%)
平成14年	21.5
平成15年	21.0
平成16年	20.3
平成17年	19.7
平成18年	20.7
平成19年	18.5
平成20年	18.1
平成21年	18.2
平成22年	19.6
平成23年	19.4
平成24年	19.6
平成25年	18.7
平成26年	19.0
平成27年	20.4
平成28年	19.6

(再掲) 30-59歳有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核

	発病～診断までの期間が 3か月以上の割合(%)
平成14年	30.3
平成15年	29.3
平成16年	28.2
平成17年	28.7
平成18年	29.5
平成19年	26.9
平成20年	27.0
平成21年	26.9
平成22年	28.4
平成23年	29.8
平成24年	30.5
平成25年	29.0
平成26年	32.9
平成27年	35.5
平成28年	32.6

平成14年～18年までは発病から登録までの期間、平成19年以降は発病から診断までの期間

発見が遅れる（症状発現から結核の診断までの期間が3か月以上）患者の割合は、19.6%となっている。

表11. 年次別 新登録肺結核培養陽性結核患者の薬剤感受性検査結果

() 内は構成比

区 分	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
新登録肺結核患者数	16,432	15,972	15,149	14,123	13,608
培養陽性患者数	11,261 (100.0)	10,523 (100.0)	10,259 (100.0)	10,035 (100.0)	9,878 (100.0)
INH, RFP両剤耐性	60 (0.5)	47 (0.4)	56 (0.5)	48 (0.5)	49 (0.5)
(再掲) INH, RFP両剤耐性のうち外国出生患者	14	15	19	16	15
上記以外でINH耐性含む	326 (2.9)	322 (3.1)	293 (2.9)	324 (3.2)	320 (3.2)
上記以外でRFP耐性含む	13 (0.1)	17 (0.2)	20 (0.2)	29 (0.3)	25 (0.3)
その他耐性	420 (3.7)	371 (3.5)	380 (3.7)	366 (3.6)	347 (3.5)
HRSEすべてに感受性	7,546 (67.0)	6,890 (65.5)	6,844 (66.7)	6,806 (67.8)	6,939 (70.2)
HR感受性その他不明		54 (0.5)	52 (0.5)	57 (0.6)	52 (0.5)
未実施・他・不明	2,896 (25.7)	2,822 (26.8)	2,614 (25.5)	2,405 (24.0)	2,146 (21.7)
(再掲)薬剤感受性検査結果判明者	8,365 (74.3)	7,701 (73.2)	7,645 (74.5)	7,630 (76.0)	7,732 (78.3)
(再掲) 薬剤感受性検査結果判明者					
培養陽性患者数	8,365 (100.0)	7,701 (100.0)	7,645 (100.0)	7,630 (100.0)	7,732 (100.0)
INH, RFP両剤耐性	60 (0.7)	47 (0.6)	56 (0.7)	48 (0.6)	49 (0.6)
上記以外でINH耐性含む	326 (3.9)	322 (4.2)	293 (3.8)	324 (4.2)	320 (4.1)
上記以外でRFP耐性含む	13 (0.2)	17 (0.2)	20 (0.3)	29 (0.4)	25 (0.3)
その他耐性	420 (5.0)	371 (4.8)	380 (5.0)	366 (4.8)	347 (4.5)
HRSEすべてに感受性	7,546 (90.2)	6,890 (89.5)	6,844 (89.5)	6,806 (89.2)	6,939 (89.7)
HR感受性その他不明		54 (0.7)	52 (0.7)	57 (0.7)	52 (0.7)

平成25年からINH, RFP両剤感受性検査結果判明者を薬剤感受性検査結果判明とし、INH, RFP感受性その他不明の区分を追加した。

平成28年の新登録肺結核培養陽性結核患者9,878人のうち、薬剤感受性検査結果が判明した者は7,732人で、78.3%となっている。このうち、多剤耐性肺結核患者数 (INH, RFP両剤耐性の者)は49人で、新登録肺結核培養陽性結核患者の0.5%となっている。また、薬剤感受性検査結果が判明した者のうち、主要4剤 (HRSE) 全ての薬剤に対し感受性のある患者の割合は89.7%となっている。

表12. 年次別 新登録結核患者の糖尿病合併あるいはH I V感染

(() 内は構成比)

区 分	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
新登録結核患者数	21,283 (100.0)	20,495 (100.0)	19,615 (100.0)	18,280 (100.0)	17,625 (100.0)
糖尿病ありの者	3,036 (14.3)	2,964 (14.5)	2,753 (14.0)	2,686 (14.7)	2,509 (14.2)
なしの者	15,978 (75.1)	15,010 (73.2)	14,536 (74.1)	13,472 (73.7)	13,277 (75.3)
不明の者	2,269 (10.7)	2,521 (12.3)	2,326 (11.9)	2,122 (11.6)	1,839 (10.4)
H I V検査実施陽性者	62 (0.3)	50 (0.2)	45 (0.2)	40 (0.2)	44 (0.2)
H I V検査実施陰性者	3,266 (15.3)	1,890 (9.2)	1,627 (8.3)	1,474 (8.1)	1,556 (8.8)
H I V検査未実施者	4,601 (21.6)	5,090 (24.8)	4,970 (25.3)	4,697 (25.7)	4,933 (28.0)
不明の者	13,354 (62.7)	13,465 (65.7)	12,973 (66.1)	12,069 (66.0)	11,092 (62.9)

平成28年の新登録結核患者のうち、糖尿病合併患者は2,509人で、新登録結核患者の14.2%となっている。また、HIV検査を実施した患者は1,600人で、新登録結核患者の9.1%にあたり、このうちHIV陽性は44人で、新登録結核患者の0.2%となっている。

表13-1. 年次別 医療従事者の新登録結核患者数（看護師・保健師）

（ ）内は新登録に占める割合

	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
総数	294 (1.4)	234 (1.1)	249 (1.3)	219 (1.2)	191 (1.1)
15～19歳	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
20～29歳	55 (4.3)	41 (3.4)	48 (4.0)	32 (2.8)	24 (1.9)
30～39歳	105 (6.9)	59 (4.5)	84 (6.8)	63 (5.7)	53 (5.3)
40～49歳	69 (4.3)	76 (5.1)	60 (4.2)	61 (4.5)	47 (3.8)
50～59歳	49 (2.7)	47 (2.8)	44 (2.9)	47 (3.5)	44 (3.4)
60～69歳	12 (0.4)	8 (0.3)	12 (0.5)	15 (0.6)	18 (0.8)
70～79歳	4 (0.1)	2 (0.0)	1 (0.0)	1 (0.0)	4 (0.1)
80歳以上	0 (0.0)	1 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.0)

平成28年の新登録結核患者のうち、看護師・保健師からの登録患者は191人で、新登録結核患者のうちの1.1%となっている。年齢階級別では、30～39歳の層が最も多く、同年齢階級新登録結核患者の5.3%となっている。

表13-2. 年次別 医療従事者の新登録結核患者数（医師）

（ ）内は新登録に占める割合

	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
総数	62 (0.3)	66 (0.3)	47 (0.2)	61 (0.3)	40 (0.2)
20～29歳	6 (0.5)	10 (0.8)	3 (0.3)	9 (0.8)	3 (0.2)
30～39歳	11 (0.7)	12 (0.9)	9 (0.7)	12 (1.1)	3 (0.3)
40～49歳	4 (0.3)	12 (0.8)	10 (0.7)	9 (0.7)	8 (0.7)
50～59歳	20 (1.1)	11 (0.7)	7 (0.5)	12 (0.9)	5 (0.4)
60～69歳	5 (0.2)	7 (0.2)	6 (0.2)	7 (0.3)	8 (0.4)
70～79歳	4 (0.1)	8 (0.2)	5 (0.1)	5 (0.1)	4 (0.1)
80歳以上	12 (0.2)	6 (0.1)	7 (0.1)	7 (0.1)	9 (0.1)

平成28年の新登録結核患者のうち、医師の登録患者は40人で、新登録結核患者の0.2%となっている。年齢階級別では、40～49歳における割合が最も大きく、同年齢階級新登録結核患者の0.7%となっている。

表13-3. 年次別 医療従事者の新登録結核患者数（その他）

（ ）内は新登録に占める割合

	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
総数	280 (1.3)	281 (1.4)	255 (1.3)	264 (1.4)	231 (1.3)
15～19歳	0 (0.0)	2 (1.2)	0 (0.0)	1 (0.6)	1 (0.5)
20～29歳	54 (4.2)	49 (4.1)	46 (3.9)	48 (4.3)	36 (2.9)
30～39歳	68 (4.5)	67 (5.1)	55 (4.5)	62 (5.6)	52 (5.2)
40～49歳	71 (4.4)	59 (3.9)	60 (4.2)	61 (4.5)	63 (5.1)
50～59歳	53 (3.0)	69 (4.1)	56 (3.7)	53 (3.9)	44 (3.4)
60～69歳	29 (1.0)	29 (1.0)	27 (1.0)	29 (1.2)	28 (1.3)
70～79歳	4 (0.1)	2 (0.0)	9 (0.2)	9 (0.2)	7 (0.2)
80歳以上	1 (0.0)	4 (0.1)	2 (0.0)	1 (0.0)	0 (0.0)

(注)その他:理学療法士、作業療法士、検査技師、放射線技師等および介護職。
看護師・保健師・医師以外の医療機関に勤務する感染リスクの高い者

平成28年の新登録結核患者のうち、理学療法士、作業療法士、検査技師、放射線技師など、看護師・保健師・医師以外の者で医療機関に勤務する者の登録患者数は231人で、新登録結核患者の1.3%となっている。年齢階級別では、30～39歳における割合が最も大きく、同年齢階級新登録結核患者の5.2%となっている。

表14-1. 年次別 無職臨時日雇等の新登録結核患者数

() 内は新登録に占める割合

	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
合 計	1,637 (28.9)	1,440 (25.4)	1,280 (23.8)	1,172 (23.7)	1,105 (23.2)
20～24歳	74 (13.8)	72 (13.4)	81 (14.6)	72 (13.7)	66 (10.5)
25～29歳	122 (18.5)	107 (16.2)	103 (16.2)	86 (14.3)	96 (15.9)
30～34歳	146 (22.8)	123 (19.2)	104 (17.0)	95 (18.4)	98 (19.0)
35～39歳	177 (26.2)	145 (21.4)	133 (21.3)	107 (18.3)	97 (19.9)
40～44歳	232 (29.3)	196 (24.8)	157 (21.9)	161 (23.2)	137 (24.0)
45～49歳	227 (32.2)	198 (28.1)	196 (27.1)	179 (26.7)	187 (28.5)
50～54歳	251 (32.2)	245 (31.5)	226 (31.8)	202 (31.3)	175 (29.1)
55～59歳	408 (46.0)	354 (40.0)	280 (34.9)	270 (38.3)	249 (35.9)

(注) 無職臨時日雇等：接客業、医療従事者、他の常用勤労者・自営業等、家事従事者、学生を除く。合計は20歳～59歳の計。

表14-2. 年次別 無職臨時日雇等の新登録結核患者数（男性、再掲）

() 内は新登録に占める割合

	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
合 計	1,012 (29.6)	830 (24.3)	734 (22.7)	699 (23.5)	613 (21.3)
20～24歳	26 (8.6)	33 (10.9)	38 (12.4)	38 (13.0)	44 (11.5)
25～29歳	63 (19.1)	44 (13.4)	39 (11.7)	39 (12.1)	37 (11.5)
30～34歳	63 (18.3)	54 (15.7)	44 (13.7)	33 (11.7)	41 (15.2)
35～39歳	94 (25.7)	62 (16.9)	75 (21.3)	56 (17.3)	43 (15.7)
40～44歳	140 (29.0)	106 (21.9)	82 (18.1)	89 (22.2)	69 (20.8)
45～49歳	146 (32.7)	130 (29.1)	120 (26.5)	116 (26.4)	110 (27.1)
50～54歳	178 (33.7)	161 (30.5)	141 (30.7)	126 (30.1)	109 (26.7)
55～59歳	302 (48.6)	240 (38.6)	195 (34.8)	202 (40.8)	160 (33.5)

(注) 無職臨時日雇等：接客業、医療従事者、他の常用勤労者・自営業等、家事従事者、学生を除く。合計は20歳～59歳の計。

平成28年の新登録結核患者のうち、登録時の年齢が20～59歳であり、登録時の職業が無職臨時日雇等であった者は1,105人で新登録結核患者の23.2%となっている。年齢階級別の患者数は、高齢層ほど多くなっており、55～59歳では、同年齢階級の35.9%を占めている。また、男性の患者に占める無職臨時日雇等の者の割合は55～59歳が最も割合が大きく、33.5%となっているが、昨年から7.3ポイント減少している。